

2016年主要国首脳会議 誘致計画のポイント

江戸時代、伊勢神宮に向かう参拝者たちは、食事や宿泊を提供してくれる街道沿いの人々に感謝しながら伊勢に向かった。報酬を受け取らず、旅人をもてなすといった伊勢神宮が存在する当地域が育んできた文化は、多様な価値観を受け入れ共存するという、日本人の精神性の原点でもある。その精神を現在にも受け継ぐ当地域は、G8メンバーによる世界へのメッセージ発信の場として、まさに、最適地である。

～多様な価値観の共存による 世界平和を発信～

- ・日本人は、伊勢参宮を通じて人々が支え合って生きていくことを学んできた。テロ行為には断固とした措置は当然としつつ、今こそ、他者を受け入れ共に生きるという、世界平和の実現のメッセージを伊勢志摩の地から発信

～環境と産業の両立、 自然と成長の調和を発信～

- ・伊勢神宮から広がる森・山・海と独自の生活様式が融合した景観を1300年以上継承しており、2016年は、伊勢志摩国立公園指定70周年
- ・三重県は公害に立ち向かってきた経験を持ち、高度な環境技術を世界に転ずる拠点(ICETT)の設立地
- ・世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」や「MRJ」の生産拠点を有し、EVや水素エネルギーの先進的取組も推進する「技術のショールーム」であり、「2025年までの都道府県別成長率予測」No.1(民間発表)

「日本人の心のふるさと」「里海」のある
「聖地 伊勢志摩」から
「共生」「成長」のメッセージを世界に発信!!

自然や人に感謝する「OKAGE-SAMA」サミットへ

～リゾート方式を実践・海洋リゾートの 一体感とリラックスできる雰囲気の中で～

- ・会場となる志摩観光ホテルクラシックは、戦後初の純洋式リゾートホテルで、小説「華麗なる一族」の舞台となった日本を代表するホテル
- ・首脳が宿泊されるベイスuiteは、全室が100㎡以上の日本屈指の快適さを誇るスイートルームで、部屋から見える英虞湾に沈む夕陽は絶景
- ・近年の高原リゾートでの開催と差別化した「おもてなし」になり、日本の観光地のプレゼンス向上

～日本を代表する豊富な歴史・伝統文化～

- ・日本の原風景とも言える田園が広がる「伊勢平野」、400年以上にわたって守られてきた「丸山千枚田」は地域の人びとの知恵と努力の結晶
- ・世界でも有数の景観を有する伊勢志摩地域のリアス式海岸、かつて朝廷に海の幸を献上してきた「御食(みけつ)国(くに)」として、今でも豊富な海産資源を提供
- ・世界遺産「熊野古道」は伊勢と熊野を結ぶ折りの道、シーボルトが持ち帰り西欧デザインに影響を与えた「伊勢型紙」
- ・日本人の世界観・価値観を探究した「本居宣長」、俳聖「松尾芭蕉」、日米友好の礎を築いた「尾崎行雄」、真珠養殖を世界で初めて成功させた「御本本幸吉」、「伊賀流忍者」を生み出した地

警備上の優位性と国内外要人警護の豊富な経験

- ・会場は英虞湾に浮かぶ「賢島」で、進入は2カ所の橋梁に限定され隔離されているほか、県内には、海上保安部が3カ所に置かれる
- ・三重県警察は天皇陛下や内閣総理大臣の神宮参拝をはじめ、海外からの要人の来訪に伴う警備経験が豊富

安倍政権の進める地方創生のシンボリック存在に

「高齢化、過疎化が進む地方」におけるサミット開催は地方創生の理念とも合致、チャンスを活かし、**三重県が地方創生の先駆けに!!**



2008年洞爺湖サミットロゴマークは、三重県の特別支援学校の生徒作品

